

令和4年度 特別講演

□ 演 題 「武田信玄をめぐる－戦国時代の課題－」

□ 講 師 長野県立歴史館 特別館長 信州大学 名誉教授 笹本 正治 氏

□ 講演内容

山梨県の歴史においては武田信玄を特別視しているが、彼の評価は侵略を受けた側において全く異なっている。

戦国時代は気候異常の中で食料生産が落ち、食料を争奪する時代であった。また、暴力を持つ者が評価される時代でもあった。そうした中で、流通促進のためには度量衡の統一が必要であった。また、食糧増産のためには新田開発を進めねばならなかった。信玄の評価もこの側面からしていく必要がある。

今、私達は地球温暖化という気候変動の最中にある。ウクライナがロシアの侵略を受ける中で現代社会の持つ問題点があぶり出されている。その最たるものはエネルギーと食糧問題である。

戦国時代と現代の比較を通しながら、日本社会が抱えている問題を再認識し、これから私達はどのような生活を目指していったらよいのかを考えたい。

□ 講師経歴

1951年山梨県敷島町（現、甲斐市）生まれ。

1977年名古屋大学大学院文学研究科博士課程修了。

1977年より名古屋大学文学部助手。

1984年より信州大学人文学部助教授。1994年より信州大学教授。

1997（平成9）3月17日 博士（歴史学）授与（名古屋大学）

2009年より2015年まで信州大学副学長。

2016年より長野県立歴史館館長。2021年より長野県立歴史館特別館長。

以下を代表とする約50冊の本を書いている。

『山岳信仰伝承と景観－虚空蔵山を中心に』 2022年。『甲信の戦国史－武田氏と山の民の興亡』 2016年。『中世の音・近世の音－鐘の音の結ぶ世界－』 2008年。『武田信玄－芳声天下に伝わり仁道寰中に鳴る－』 2005年。『災害文化史の研究』 2003年

□ 研究内容

16世紀を中心とする日本史学。とりわけ、職人史、災害史、音の歴史などを研究している。